

I 研究主題

よろこび・いきいき・高め合う子どもの育成

～子どもを中心にした授業づくりを通して～

II 主題設定の理由

言語活動が充実した授業を展開することは、子ども自身が、考えたり、感じたり、それらを表現したり、また他者と心を伝え合ったりするなど、言語を通して思考力、判断力、表現力を活用したり高めたりしながら解決していく姿となり、このことが、子どもを中心にした授業につながる。このことは、今日的な教育的課題とともに、本校の実態から見られる課題の解決につながる。

本年度は、各教科等において、質の高い課題とその設定につながるための出会いの工夫、また、子どもの探究的な学びにつながる他者とのかかわり合い、そして、自らの力を試したり、適用したりする場を設定することで、子どもの主体的な活動を促し、子どもを中心にした授業づくりに取り組むことにした。

そこで、「よろこび・いきいき・高め合う」場面を「出会いをよろこぶ姿、他者とかかわり探究的な学びの姿、自らの力を試し・適用する姿」とし、言語活動の充実を伴った学習に沿って展開し、授業改善できるよう研究主題を「よろこび・いきいき・高め合う子どもの育成」とした。

III 研究主題について

「よろこび」とは・・・出会いをよろこぶ姿

子どもは、「なるほど」「なぜ」が生まれてくるような出会いの場や活動によって、「もっと知りたい」「どうなっているのだろう」と興味・関心を高め、自らの推理を働かせながら、その後の学習を進めていく。そこで、教師は、子ども一人一人の関心・意欲・習熟度・傾向性・経験等を生かすことができるよう、特性の把握と分析をすることで、教材の開発や質の高い学習課題の設定が必要である。

このように、「よろこび」とは、質の高い課題とその設定につながる出会いをよろこぶ姿である。

「いきいき」とは・・・他者とかかわり探究的な学びの姿

子どもは、何とかして解決したいと思う学習課題に出会っても、それが何か、どうなっているのかを知らず、解決したいとする意欲は冷めてしまう。また、何をどのようにして解決すべきか見通せない場合も解決への意欲は湧いてこない。そこで、教師の問いかけやそれぞれの子どもがもつ考えの違いをかかわらせるなど、自分なりに考えたことを他者に伝え、他者を説得したり、他者の考えにも耳を傾けたりしながらさらに考え、納得して分かるようにすることが大切である。

このように、「いきいき」とは、思考力・判断力・表現力を活用し、他者とかかわりの中で、探究的な学びにつながる姿である。

「高め合う」とは・・・自らの力を試し・適用する姿

子どもが、学習において、理解しただけでは、実社会や実生活に応じてうまく活用させることは難しい。そこで、学んだことを他の学習や実際の生活の中で、一度または何度も活用することができるよう、学校内外における学習において、自らの力を試したり、適用したりする場を設定していく必要がある。いわゆる学力の転移を試す場を設定するのである。

このように、「高め合う」とは、自らの力を試したり、適用したりしながら、実感を伴い、自らを高めていく姿である。

子どもを中心にした授業とは

一単位時間の授業の中で、子どもが課題を強く意識し、その課題の解決に向かって自分の考えをもち、ペアやグループ、全体で活発に考えを交流しながら、意見を拡散・深化・統合していく。さらに、終末では、子どもたち自身が交流により学習のまとめを行なう授業である。つまり、問題解決学習の活動の一切を子どもたちが進めながら授業を展開していくスタイルである。このような授業の中心には言語活動があり、これは不可欠なものである。

では、教師の役目はどうあればよいのか。それは、教師は授業のコーディネーターとして子どもの目標実現の支援に徹するのである。教師は、一単位時間の授業の課題を提示し、進行を子どもに委ねる。そして、教師は子どもの意見を板書したり、司会が行き詰まったり、授業の軌道修正が必要になったりした場合、考えの集約や方向付けの支援をする。そして、授業の終末では、子どもの考え方や意見の出し方などを認めたり、ほめたり、子どもがまとめたもの以外の例や参考例を紹介したりしていくのである。

このような子どもや教師の姿こそ、子どもを中心にした授業ととらえ、私たちがめざしていく授業である。

IV 研究の仮説

子どもの疑問や興味・関心をゆさぶる教材や課題と出会わせ、探究的な学びが生まれるよう他者とかかわりながら学び合い、自らの力を試す場を工夫すれば、よろこび、いきいき、高め合う子どもが育つであろう。

V 研究の内容

視点1 出会いをよろこぶ姿

- ①子ども一人一人の特性把握と分析
 - ・子ども一人一人の思考力・判断力・表現力について把握し、学習目標、及び内容と照らして分析
- ②学ぶ意欲を高める教材の開発および提示
 - ・やってみたい、考えてみたいと思う教材
 - ・一部分だけ見せて考えさせるなど提示の仕方の工夫
- ③質の高い学習課題の設定
 - ・すぐに答えが分からない課題
 - ・答えが分かりそうで分からない課題
 - ・一旦答えが分かるが、本当にそうだろうかと疑問をもつ課題

視点2 他者とかかわり探究的な学びの姿

- ①課題解決への意欲を高める発問の工夫
 - ・「～なのに～するのはなぜだろう」など
- ②他者とかかわり合いを促すはたらきかけ
 - ・思考を促すための板書やカード提示、学習形態の工夫（ペア、グループ、ジグソーなど）
 - ・自分のめあて達成に向けての考えの選択や整理
 - ・他者に自分の考えを伝えるための方法や内容の選択と整理

視点3 自らの力を試し・適用する姿

- ①他の学習（他教科や活動）で試す場の工夫
- ②実生活の場で試す場の工夫